

投資信託は投資元本が保証されているものではありません。

2018年7月31日現在

ファンドの概況

基準価額 (円)	9,909
プロテクトライン®*1 (円)	9,000
次のスイッチ®*2 (円)	10,600
基準価額最高値 (円)	10,112
純資産総額 (億円)	2,316.3
設定日	2017年7月28日
信託期間	2033年7月11日まで
決算日	原則、毎年7月11日 (休業日の場合は翌営業日)

※1 基準価額が常にこれを上回る運用を目指す水準です。ただし、基準価額がプロテクトライン®を必ず上回る運用をすることを委託会社が保証するものではありません。詳しくはP.4の「ファンドの特色」をご確認ください。

※2 基準価額が10,600円に到達するとプロテクトライン®は10,000円に引き上がります。市場動向等により基準価額が「次のスイッチ」に到達しない場合があります。詳しくはP.4の「ファンドの特色」をご確認ください。

・右記の基準価額の変動要因は概算値であり、実際の変動額を正確に説明するものではありません。傾向を把握するための参考値としてご覧ください。

・基準価額の変動要因の「その他要因」は、信託報酬、保証料、その他の誤差等を含みます。

・各項目毎に四捨五入をしているため、合計が一致しない場合があります。

騰落率

期間	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.47%	-0.03%	-1.52%	-0.91%	-	-0.91%

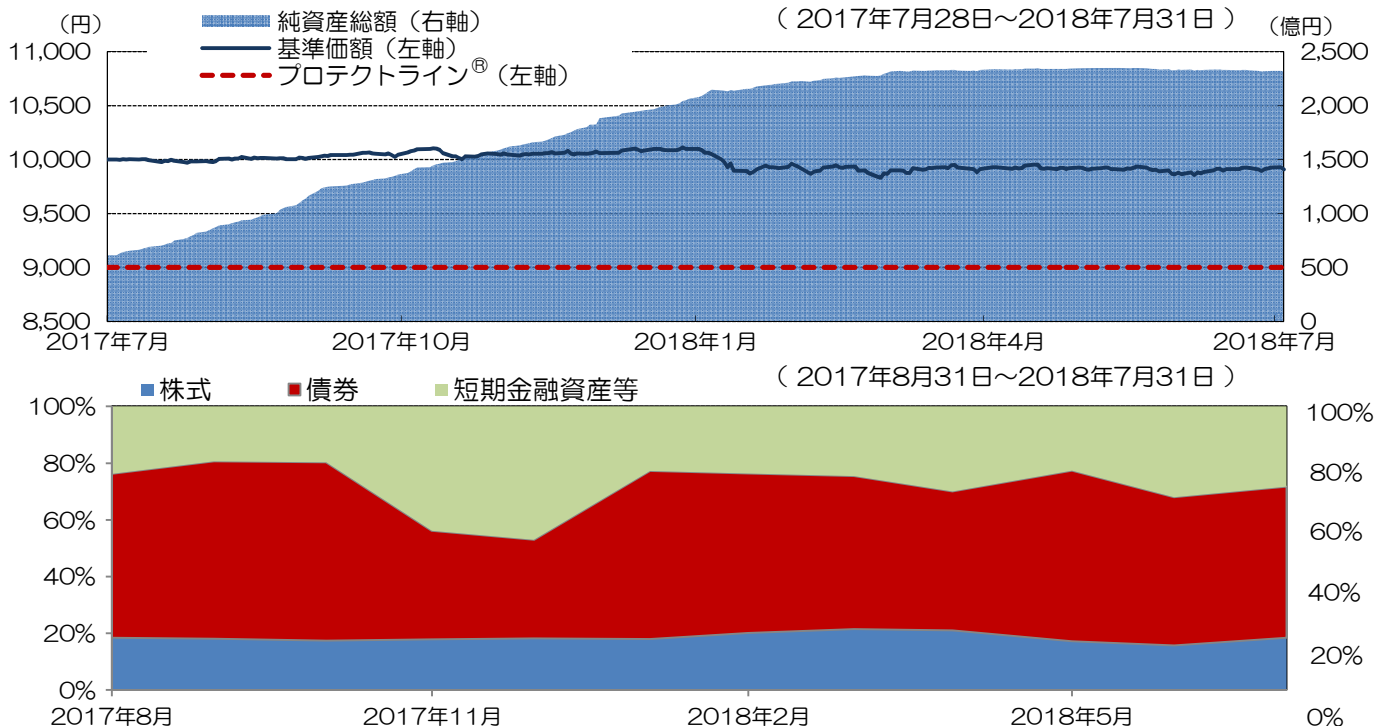
・騰落率は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。ファンドの騰落率であり、実際の投資家利回りとは異なります。

基準価額の変動要因

当月末基準価額	9,909円
前月末基準価額	9,863円
基準価額の変動額	46円
債券要因	17円
国債	-2円
グローバル投資適格社債	10円
グローバルハイイールド社債	9円
株式要因	46円
為替要因 (ヘッジコスト含む)	-4円
その他要因	-14円

世界的にリスク資産がリターンへの押し上げに寄与しました。なかでも米国を中心とした株式がリターンに寄与しました。社債も投資適格社債、ハイイールド社債ともにプラス寄与となりました。米国国債はマイナス寄与でしたが、新興国国債と欧州国債がこれをおおむね相殺しました。

基準価額と資産配分 (大分類) の推移



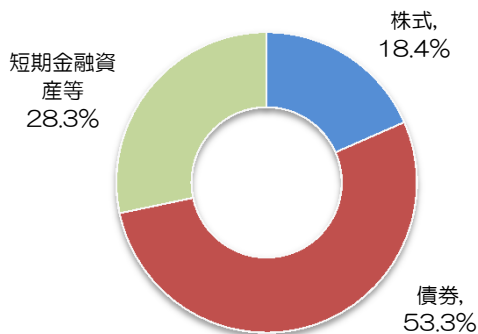
- ・基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬については、後記の「手数料・費用等」をご覧ください。
- ・資産配分の比率は、純資産総額比です。「短期金融資産等」は、現金を含みます。主に日本円であり、一部その他資産も含まれます。
- ・資産配分の比率は、価格下落により利益を得られる取引 (売りポジション) を含む場合、差し引いて表示しています。
- ・資産配分の推移は、月次ベース (2017年8月31日以降) です。

プロテクトシリーズ®、プロテクト&スイッチ®、あんしんスイッチ®およびプロテクトライン®は、アムンディ・ジャパンの登録商標です。

アムンディ プロテクトシリーズ®の商品コンセプト等は特許出願中です (特願2017-129052)

2018年7月31日現在

資産別配分比率（大分類）



・「短期金融資産等」は、現金を含みます。主に日本円であり、一部その他資産も含まれます。  
・価格下落により利益を得られる取引（売りポジション）を含む場合、差し引いて表示しています。

資産別配分比率（中分類）

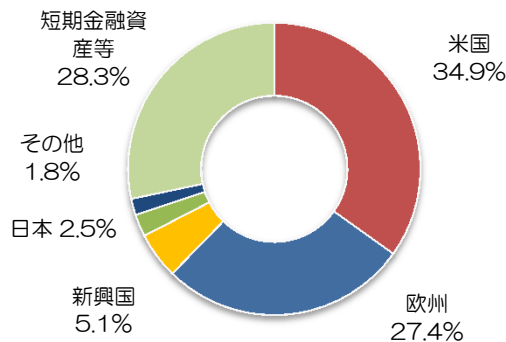
（純資産総額比）

先進国株式	16.5%
新興国株式	1.9%
先進国国債	18.4%
新興国国債	2.3%
グローバル投資適格社債	27.6%
グローバルハイイールド社債	5.0%
短期金融資産等	28.3%
合計	100%

・「短期金融資産等」は、現金を含みます。主に日本円であり、一部その他資産も含まれます。  
・売りポジションはマイナス表記となります。

国・地域別比率

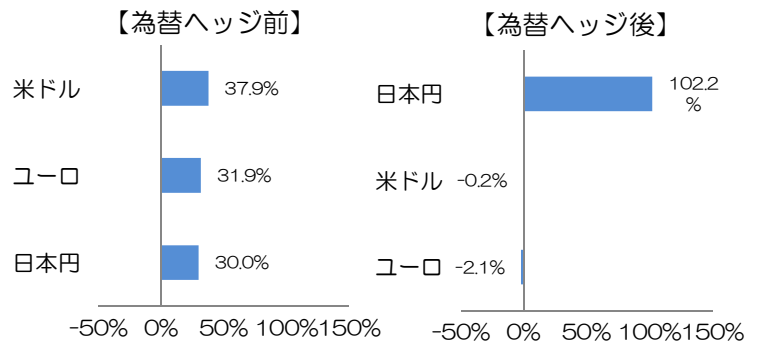
（純資産総額比）



・「短期金融資産等」は、現金を含みます。主に日本円であり、一部その他資産も含まれます。  
・価格下落により利益を得られる取引（売りポジション）を含む場合、差し引いて表示しています。

通貨別上位比率

（純資産総額比）



・通貨別上位比率【為替ヘッジ後】は、投資している有価証券等の通貨と保有している現金に対する為替ヘッジ後の比率です。比率は、為替取引によっては、マイナスとなる場合があります。

組入上位10銘柄（買い）

（純資産総額比）

順位	銘柄名	資産	資産概要	比率
1	アムンディ S&P500 ETF	株式	米国株式	9.1%
2	アムンディ EuroMTS低位格付国債 ETF	債券	欧州国債	6.8%
3	アムンディ・インデックスUSコープSRI - UCITS ETF	債券	米国投資適格社債	6.7%
4	iシェアーズ 米国国債7-10年 ETF	債券	米国国債	6.1%
5	アムンディ 欧州社債 ETF	債券	欧州投資適格社債	5.6%
6	バンガード 米国中期社債 ETF	債券	米国投資適格社債	5.4%
7	アムンディ ユーロ投資適格社債BBB ETF	債券	欧州投資適格社債	5.2%
8	アムンディ ABS ファンド	債券	欧州投資適格社債	4.7%
9	アムンディ 米国国債7-10年 ETF	債券	米国国債	3.5%
10	アムンディ ユーロ・ハイイールド高流動債券 iBOXX ETF	債券	欧州ハイイールド社債	3.3%
上位10銘柄（買い）合計				56.5%

組入全銘柄数

組入全銘柄数	20 銘柄
--------	-------

分配金実績（1万口当たり/税引前）

設定来累計		0円	
決算日	分配金	決算日	分配金
2018年7月11日	0円	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-

・分配金は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。  
・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

2018年7月31日現在

## 市況コメント

(アムンディ アセットマネジメント)

日本株式市場は、月初こそ下落で始まりましたが、上昇して月末を迎えました。貿易摩擦を懸念して売り先行で始まりましたが、米国とEU（欧州連合）が自動車関税問題で合意する可能性をきっかけに反発しました。また、好調な米国の雇用統計も株価の押し上げ材料となりました。その後は、米国の対中関税で2,000億米ドルの追加リストの公表、中国の積極財政政策への転換、日銀が長期金利の変動を許容しETF（上場投資信託）購入を見直すとの報道などの材料が拮抗（きっこう）しました。

世界株式市場は、トランプ米国大統領がEU（欧州連合）と貿易摩擦の緩和で合意したことや、米国を中心に4-6月期の企業決算が全体的に好調であったことなどが市場で好感されました。そのため、米国株や欧州株は良好なリターンとなりました。新興国株式市場は、中南米や欧州などの通貨の安定を背景に良好なリターンとなりましたが、米中貿易摩擦の激化により中国が下落したことを受けアジアの株式市場は横ばいとなりました。

世界債券市場は、おおむね横ばいとなりました。世界的なインフレ率の上昇や各国・地域の中央銀行のタカ派的な金融政策を背景に、金利は世界的に上昇（国債価格は下落）しました。しかし、その他の債券市場は、株式市場と同様に投資家心理好転の恩恵を受けました。欧州周縁国国債のスプレッド（ドイツ国債との利回り格差）は縮小しました。社債市場（投資適格社債、ハイイールド社債）および新興国市場は上昇しました。

## 運用状況

### 株式、社債市場の上昇が主なプラス要因

当ファンドは上記のような環境のもと、プロテクトライン®を意識し分散を重視した慎重な運用スタンスで投資を行いました。当月はポートフォリオのリスクをやや引き上げました。株式は、実質的なウェイトが拡大しました。一方で、債券のウェイトは、おおむね安定的に推移しました。為替については対円でヘッジを行っています（日本円、米ドル、ユーロの順番で通貨が強いと予想しています）。

当月は、米国国債の利回り上昇（債券価格は下落）がマイナス要因となりましたが、株式、社債（投資適格社債、ハイイールド社債）、新興国国債の上昇がこれを上回りました。

## 今後の運用方針

### リスク資産に前向きかつバランスの取れた運用を継続

堅調なファンダメンタルズ（基礎的条件）には大きな変化はなく、リスク資産に対して前向きな見通しを維持しています。ただし、貿易摩擦は市場のボラティリティ（価格変動性）を高めるリスクがあり、慎重な姿勢を維持する方針です。また、地政学的リスクや金利動向なども注視しています。株式、なかでも米国株がリターンの源泉かつ比較的低位リスクとみて重視しています。欧州株は相対的に魅力が存在しつつも政治的不透明感が懸念材料です。社債は特に欧州に魅力があり、リターンの源泉と考えます。米国国債は、相対的に高い金利が魅力的であり、リスクヘッジとしての機能も期待しています。

当ファンドのリスクは、市場の下落リスクに備えつつも、市場の下落時にリスク資産を増やすことが可能な水準です。当ファンドは、引き続き「プロテクトライン®」を注視するとともに、リスクを適切な水準に維持しバランスのとれた資産配分とする、慎重な姿勢を継続する方針です。

## あんしんスイッチ関連動画



[https://www.amundi.co.jp/report/fund/video-anshin\\_switch.html](https://www.amundi.co.jp/report/fund/video-anshin_switch.html)

## 最新の運用報告動画



[https://www.amundi.co.jp/report/fund/ireport-video-anshin\\_switch.html](https://www.amundi.co.jp/report/fund/ireport-video-anshin_switch.html)

## ファンドの目的

安定した収益の確保と投資信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として運用を行います。

## ファンドの特色

- ① 世界の株式、債券および短期金融資産など、さまざまな資産へ投資し、資産配分を機動的に変更することにより、基準価額がプロテクトライン<sup>®</sup>\*1を上回るように運用しつつ、安定的な収益の獲得を目指します。

※1 プロテクトライン<sup>®</sup>とは、基準価額が常にこれを上回る運用を目指す水準です。ただし、基準価額がプロテクトライン<sup>®</sup>を必ず上回る運用をすることを委託会社が保証するものではありません。なお、設定時の基準価額（10,000円／1万口当たり）に対するプロテクトライン<sup>®</sup>は、9,000円です。

- ② プロテクトライン<sup>®</sup>は、基準価額の水準に応じて上昇します。一旦上昇したプロテクトライン<sup>®</sup>は下がりにません。

- ③ 基準価額がプロテクトライン<sup>®</sup>を下回らないように、投資信託財産のための契約（保証契約）\*2をクレディ・アグリコル・エス・エー（保証銀行）と締結します。基準価額がプロテクトライン<sup>®</sup>まで下落した場合は、保証契約により基準価額はプロテクトライン<sup>®</sup>を下回ることなく繰上償還します。

※2 保証契約とは、基準価額がプロテクトライン<sup>®</sup>を下回らないために必要となる額を投資信託財産に支払うことで、基準価額をプロテクトライン<sup>®</sup>で確保する契約です。したがって、投資元本すべてを保証するものではありません。なお、ファンドに保証契約を付加することで、信託報酬とは別に保証料をご負担いただきます。

- ④ 組入外貨建資産については、為替ヘッジを行うことを基本としますが、一部ヘッジを行わない場合もあります。

- ⑤ 運用の指図の権限は、アムンディ アセットマネジメントに委託します。



保証契約は、クレディ・アグリコル・エス・エーの信用リスクの影響を受けます。クレディ・アグリコル・エス・エーが破綻した場合は、保証契約は終了し、ファンドは繰上償還します。この場合、基準価額や償還価額がプロテクトライン<sup>®</sup>を下回る場合があります。

◆資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。◆

## 収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻りに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

## 投資リスク

ファンドは、主として世界の株式、債券、不動産投資信託証券（関連する証券（上場投資信託証券等）を含みます）等の値動きのある有価証券（外貨建資産には為替変動リスクがあります）に実質的に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。ファンドの基準価額の下落により、損失を被り投資元本を割込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者に帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。

基準価額の変動要因としては、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、資産等の選定・配分リスク、流動性リスク、信用リスク等があります。なお、基準価額の変動要因（投資リスク）はこれらに限定されるものではありません。また、その他の留意点として、ファンドの繰上償還、分配金に関する留意事項等があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

<お申込の際には、必ず投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。>

## 当資料のお取扱についてのご注意

■当資料は、法定目論見書の補足資料としてアムンディ・ジャパン株式会社が作成した販売用資料であり、法令等に基づく開示資料ではありません。■当ファンドの購入のお申込にあたっては、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、お受取りの上、内容は投資信託説明書（交付目論見書）で必ずご確認ください。なお、投資に関する最終決定は、ご自身でご判断ください。■当資料は、弊社が信頼する情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性について弊社が保証するものではありません。また、記載されている内容は、予告なしに変更される場合があります。■当資料に記載されている事項につきましては、作成時点または過去の実績を示したものであり、将来の成果を保証するものではありません。また、運用成果は実際の投資家利回りとは異なります。■投資信託は、元本および分配金が保証されている商品ではありません。■投資信託は値動きのある証券等に投資します。組入れた証券等の値下がり、それらの発行者の信用状況の悪化等の影響による基準価額の下落により損失を被ることがあります。したがって、これら運用により投資信託に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様に帰属いたします。■投資信託は預金、保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関を通じてご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象とはなりません。■投資信託のお申込に関しては、クーリングオフの適用はありません。

お申込の際は、投資信託説明書（交付目論見書）でご確認ください。

### お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として6営業日目から販売会社においてお支払いします。
購入換金申込受付不可日	ユーロネクストの休業日、フランスの祝休日、または12月24日である場合には受け付けません。
申込締切時間	詳しくは販売会社にお問合せください。
換金制限	委託会社の判断により、一定の金額を超える換金申込には制限を設ける場合があります。
申込受付の中止および取消し	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金の申込受付を中止すること、および既に受け付けた購入・換金の申込受付を取消すことができます。</li> <li>基準価額がプロテクトライン®まで下落した場合は繰上償還となり、その翌営業日以降の購入申込受付は中止します。また、償還日前の一定期間（およそ2週間）の換金申込は受け付けない場合があります。</li> </ul>
信託期間	2033年7月11日までとします。（設定日：2017年7月28日）
決算日	年1回決算、原則として毎年7月11日です。休業日の場合は翌営業日とします。
収益分配	原則として毎決算時に収益分配方針に基づいて分配を行います。収益分配金の「再投資」を選択した場合、税引後無手数料で再投資されます。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。配当控除および益金不算入制度は適用されません。

### 手数料・費用等

投資者の皆様 realistically にご負担いただく手数料等の概要は以下のとおりです。ファンドの費用の合計額については保有期間等に依りて異なりますので、表示することはできません。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

#### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

#### 投資者が投資信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）・保証料	<p>純資産総額に対して<b>年率1.4404%（税込）以内*</b></p> <p>※ファンドの信託報酬年率1.2204%（税抜1.13%）以内に保証料年率0.22%を加算しております。ただし、基準価額がプロテクトライン®まで下落し、繰上償還が決定した場合は、繰上償還決定の翌日から償還日までには保証料（年率0.22%）のみとなります。</p> <p>◆上記の運用管理費用（信託報酬）および保証料は有価証券届出書作成日現在のものです。</p>
その他の費用・手数料	<p>その他の費用・手数料として下記の費用等が投資者の負担となり、ファンドから支払われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有価証券売買時の売買委託手数料および組入資産の保管費用などの諸費用</li> <li>信託事務の処理等に要する諸費用（監査費用、目論見書・運用報告書等の印刷費用、有価証券届出書関連費用等を含みます。）</li> <li>投資信託財産に関する租税 等</li> </ul> <p><b>* その他の費用・手数料の合計額は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。</b></p>
委託会社、その他の関係法人	<p>委託会社：アムンディ・ジャパン株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第350号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会</p> <p>受託会社：株式会社SMBC信託銀行（再信託受託会社：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社） 販売会社：販売会社については巻末をご参照ください。</p>
ファンドに関する照会先	<p>アムンディ・ジャパン株式会社 お客様サポートライン 0120-202-900（フリーダイヤル） 受付は委託会社の営業日の午前9時から午後5時まで ホームページアドレス：<a href="https://www.amundi.co.jp/">https://www.amundi.co.jp/</a></p>

販売会社一覧（業態別・五十音順）

金融商品取引業者等		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人投資信託協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第54号	○			○	○
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○		○	○	○
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○		○	○	○